

一般質問から

平成28年第2回定例会の一般質問は、6月15日、16日、17日の3日間にわたり、16人の議員が36項目の質問事項について、市の見解を求めました。ここでは、各議員の主な質問と、それに対する市の見解を紹介いたします。

なお、詳しくは、8月末ごろに更新予定のホームページをご覧ください。

※議員名の上の番号は、議席番号を示しています。



福祉避難所の整備について

Q 九州、熊本・大分での地震の際には福祉避難所開設が予定通り進まず、災害弱者に対する備えの必要性が改めて浮き彫りになりました。そこで、本市の現状と課題について伺います。

A 課題の1点目は要援護者者の把握です。災害時要援護者個別計画書は、平成25年に提出依頼を送付し、現在183人が登録されています。さらなる周知を図るため、リスト掲載者に個別計画書の提出について通知します。2点目は避難所の収容人数です。「やしお苑」と「杜の家やしお」で福祉避難所を開

2番 高波 幸雄

設できますが、収容人数には限界があります。収容人数確保に向け、現在の2箇所に加え、有料老人ホームやグループホーム等の施設と協議を行いたいと考えています。3点目は避難所の人材確保です。福祉避難所を運営するためには、介護職員など、専門の職員確保が必要です。災害発生時には職員も被災することが考えられますので、訪問介護や通所介護などのサービス事業所に対し、介護職員派遣など、協力体制の確立に向けた協議をしていきたいと考えています。

いじめ問題について

Q いじめをなくす対策について、小中学校ではどのような取り組みを行うのか、さらに、児童・生徒に父母を交えた合同の勉強会を行ってみたいかどうかと思いますが、お尋ねします。

A 昨年9月に制定されました「八潮市みんなでいじめをなくすための条例」通称「いじめゼロ条例」を周知・啓発するためのリーフレットを活用した授業を市内全小中学校の全学級で行います。また、9月には「いじめ防止強化月間」を設定し、様々な取り組みや啓発を行

21番 豊田 吉雄

い、さらに全中学校では、生徒会が主体となって「いじめ撲滅運動」を実施してまいります。勉強会については、全学校で家庭教育学級や授業参観の機会に児童生徒、保護者も含め、インターネット上の危険性やトラブルに関する啓発教育に取り組みでまいります。



八潮市役所の耐震化について

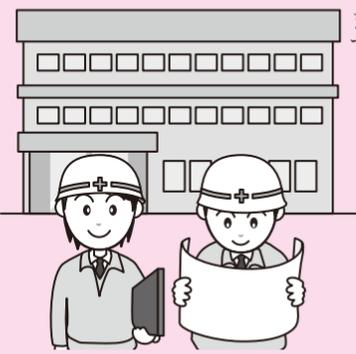
Q 新聞で八潮市役所が新耐震基準を満たしていないと報道されましたが、今後耐震化を進める中、改修か、新しく建て替えるのか伺います。

A 市役所の耐震化につきましては現在、「改修」又は「建て替え」かの方向性を検討している段階であり、市議会の公共施設等調査特別委員会においても審査いただいている状況です。

平成26年度に行った「市庁舎耐震化調査」の結果などにより、市としての「庁舎耐震化手法の方向性(案)」として、建て替え

19番 瀬戸 知英子

が望ましい」との意見を述べさせていただいております。公共施設等調査特別委員会からの意見をいただきながら、今後の方向性を決定して参りたいと考えております。



食品ロス削減に向けての取り組みについて

Q 家庭における食品の適切な管理や食材の有効活用、飲食店等における「残さず食べる運動」や「持ち帰り運動」など、市民、事業者が一体となった食品ロス削減に向けての啓発・取り組みを進める考えについて

A 日本の食品のロスの量は、世界全体の食糧援助量の約2倍であり、日本の米生産に匹敵しているといわれております。埼玉県では、三つの取り組みで食品ロスを徹底的に減らす施策として「食べきり埼玉大作戦」を実施しており、本年4月に策

18番 武之内 清久

定した「第二次八潮市環境基本計画」におきまして、地球環境分野での環境目標である「温室効果ガスやごみの排出量が削減された地球環境を守るまち」を実現するための方針として「ごみの減量化の推進」を定め、食品ロスを減らすための普及啓発活動の実施を位置づけたところであります。今後は、埼玉県の取り組みを参考にして広報やお、ホームページや、ごみカレンダーへの掲載などにより、積極的に啓発活動を実施してまいります。

ごみの減量化について

Q 平成26年度県民一人当たりのごみ(一般廃棄物)の排出量は、減少していることが報道されています。しかし、自治体間の排出量には最大1.8倍の格差があることも一方であり、八潮市も県平均897グラムに比して1013グラムとまだまだ排出量が多いのが実態です。さらなる減量化に向けての取り組みを伺います。

A 八潮市の一人一日当たりのごみの排出量1013グラムは家庭から出された可燃ごみ、事業系の可燃ごみ、ビン・缶などの資源ごみ、不燃ごみ、資源回収団体が回収した資源ご

9番 池谷 和代

みなどの廃棄物の合計を人口と一年間の日数で除した値です。1013グラムのうち最も多く占めるのは可燃ごみ(85パーセント)であり、ごみの減量化には、この削減対策が最も効果的と考え、ごみカレンダーなどで紙・布類のさらなる分別の徹底をお願いしてまいります。また、組成等分析調査では、水分が46.7パーセントと多くなっておりますので、野菜くずや茶殻等の生ごみの水切りの徹底についても皆様の協力をお願いしていきたいと考えています。